



環境の森センター・きづがわ建設に向けて

～“環境の森センター・きづがわ”は、皆さんの日常生活に欠くことのできない施設です。～

市では、市民生活に不可欠なごみ焼却施設”環境の森センター・きづがわ”(鹿背山地内)の施設建設工事に着手しました。現在、木津川市と精華町から排出される可燃ごみは、相楽郡西部塵埃処理組合の“打越台環境センター”(精華町内)で処理をしていますが、施設の老朽化が相当進んでいるとともに、ごみ量の増加により、打越台環境センターで処理しきれないため、民間事業者に委託せざるを得ない状況が続きます。

一日も早い環境の森センター・きづがわの完成を目指して、施設整備工事を進めています。

【ごみピットの掘削などに取り組んでいます】

5月下旬からごみピットの掘削などに取り組んでいます。

ごみピットの容量は約5千㎥で、掘削期間は約4か月を見込んでおり、掘り上るのは9月末頃の予定です。

建設用地の地下は花崗岩質で、ごみピットの掘削は、本工事の中でも難工事の一つです。

また、ごみピットの掘削に併せて、建物基礎の整備に取り組んでいます。建物基礎の地質は、ほとんどの部分は岩質ですが、一部盛土部分があります。盛土の深さが5.5mを越える部分は、深基礎杭工法により補強することとしており、5月下旬から6月上旬に、この補強工事をおこないました。

深基礎杭工法とは、支持層まで円筒状の孔を専用の機械で掘り、鉄筋で作った骨組みを孔に入れた後、コンクリートを流し込んで補強するものです。

〈現場の状況〉



“環境の森センター・きづがわ”的早期稼働に向けて、地元の皆さまをはじめ市民の皆さん、一人ひとりのご理解とご協力をよろしくお願いします。

【ごみ減量に協力をお願いします】

環境の森センター・きづがわで焼却処理する可燃ごみ(燃やすごみと廃プラスチック類)の平成27年度分が集計できました。

家庭から排出された可燃ごみ量について、平成26年度と比較すると、人口の増加などにより、総量で約288t増加しています。

一人1日あたりの排出量で比較すると、約2g増加となり、減量が進んでいません。

平成27年度に市がおこなったごみ組成調査結果によると、燃やすごみの中には、新聞紙や雑紙などの資源ごみが多く、手付かずの食品も含まれています。分別の徹底や調理くずの水切りなど、ちょっとした努力で、可燃ごみはもっと少なくすることが可能です。

環境の森センター・きづがわを建設する一方で、可燃ごみの減量について取り組むことが大切です。

可燃ごみの減量を進めることで、施設周辺地域の環境負荷のさらなる低減が可能です。

可燃ごみの減量に向けて、市民の皆さんのご協力をよろしくお願いします。

【可燃ごみの排出量の実績】

	H26年度	H27年度	比較
年間の総排出量	約11,817t	約12,105t	約288t増
一人1日あたりの排出量	約445g	約447g	約2g増

※廃プラスチック類とはビニール・プラスチック類として収集しているごみです。ビニール・プラスチック容器包装類は含んでいません。

※一人1日あたりの排出量は、各月の一人1日あたりのごみ量の平均値です。